

平成23年7月1日

発行人 長野県民生児童委員協議会  
会長 百瀬 弘

編集人 編集委員会  
委員長 熊井 文弘

〒380-0928 長野市若里7丁目1番7号  
(長野県社会福祉協議会内)

緊急企画

栄村訪問  
震災対応の現状を知る

Contents

栄村訪問	2
訪問①池田町「赤ちゃんボランティア」	4
訪問②佐久市東地区紅雲台区「いきいきサロン」	5
ひるば／小諸市・駒ヶ根市・朝目村・信濃町	6
トピックス 義援金報告&平成23年度事業計画	8



栄村訪問

震災対応の現状を知る

東北地方太平洋沖地震の翌日、3月12日午前3時59分、マグニチュード6.7の直下型地震に見舞われた長野県栄村。未だ道路には亀裂が残り、危険度を表す貼り紙が貼られた建物が目立っています。地震直後の住



震災直後の倒壊現場 ※

民の様子はどうか。行政や住民自治、NPOの動きはどうだったのか。民生児童委員はどう動いたのか。震災から2カ月が経過した5月20日(金)、本誌の熊井編集委員長が訪ね、各関係者に話をうかがい、様々な角度から震災時の様子を取材しました。



栄村住民福祉課長 市川一幸さん(向かって右)

まず、ひとりも見逃さず避難、そして復旧

栄村は人口約230人。高齢化率が45%。ひとり暮らしのお年寄りは約220人います。民生児童委員は13人で、同時に村長から雪害対策救助員制度の認定などを行う福祉委員も任命されています。住民福祉課長の市川一幸さんに震災後の状況と、民生児童委員の動きについて聞きました。

「家が全壊した委員は2人。特に被害の多かった横倉地区の委員自身の家が全壊となり、隣の地区の委員が本当にご苦労された」と話し始めました。委員は地震直後、担当地域のひとり暮らしのお年寄りの安否確認を行い、避難命令が出るとすぐに対応に当たりました。また平成16年の改選で市川さんが住む月岡地区と隣の小滝地区には2地区で民生児童委員が2人から1人へ。「小滝は地震で孤立してしまい、防災ヘリコプターで避難所へ搬送された。一方、月岡では区長と消防団の幹部がひとり暮らしのお年寄りを避難させた」。住民自治が根つき地域の結びつきが強い栄村では、区長や消防団員もお年寄りの所在



土砂が崩れて飯山線が不通に ※



橋が大きく寸断され、通行が困難に ※

を日頃から把握しています。だから委員が被災したり確認できない状況におかれた地区は、ひとりも見逃さず区長や消防団員が確認し、避難させることができました。そうした情報も避難後には区長から担当委員に入ってきた。3月14日の時点で7カ所に170人が避難しました。避難所では委員が活躍しました。「保健師と民生児童委員がこまめにお年寄りに声を掛けたことが住民の安心につながった」と力説します。いくつかの集落がまとまって避難したこともあって区長を中心に自然に「避難所自治」が生まれたといえます。その間、役場は170人分の食料の確保、ライフラインや交通網の復旧、医療の対応などに奔走。役場自体も避難所として多くの住民がロビーから地下の会議室まで溢れました。市川さん自身も震災直後から、2週間、役場で寝泊りし、3月28日によつやく家に帰れたといっています。

また「村内で116人登録している『下駄履きヘルパー』の存在が大きい」と市川さん。どの地区にもヘルパー登録者がいます。民生児童委員自身にも登録者がいて、日頃から配食サービスや介護などを通して、お年寄りの状況を把握しています。そうした情報が委員に入っていたことも大きな助けとなりました。「なによりも民生児童委員が職員や区長では気がつかない、住民の体と心のケアをしてくれたことがありがたい」と市川さん。こうした住民同士の助け合いが、二次被害を防ぎ、今も栄村の復興を支えています。



## 定例会では経験が赤裸々に語られた

訪問した5月20日、震災後初めての栄村民児協の定例会がありました。震災直後から今に至るまでの自分の行動、そして現在の住民の安否確認について細かく報告されました。

震災直後については「ひとり暮らしのお年寄りの家庭をすべて回った。不安なため、近所の人の家に避難していたひとり暮らしのお年寄りも多かった」「安全なところへ消防団が避難させてくれた」「避難命令が出て「私は家にいる」と動きたくないお年寄りも多かった。だから、避難するよう説得するのが大変だった」「車を出せる人は出して、1日目は車の中で過ごし、ラーメンでしのいだ」など直後の壮絶な状況が語られました。

避難所に避難してからの生活については「避難所では最初は不安でも、大勢の中で暮らす内に、お年寄りは却って明るく見えた」「避難所から何人か、村外へ送り出した人もいた」「震災の影響なのか認知症が進んでしまった例もあった」「避難所が学校だったので、学校の先生や子どもたちがよく動いてくれて本当に助かったし、励まされた」「秋山地区は被害がほとんどなかったが、余震のたび地響きがすごく、不安な毎日だった」「避難して10日くらいから、体調を崩し始めたお年寄りが出てきた」など、詳しい話が聞かれました。

また各地域のお年寄りの所在については県外での所在確認、施設への入居確認など、移転した家族やお年寄りの状況が細かく報告さ



定例会での栄村民児協の初め頃の災害後

れました。「いったん村外に避難した人も含め、今はほとんどが帰ってきて、他の家を借りて住んだり、仮設住宅に入るなどしている」との報告もされ、委員のみなさんもほっとした様子でした。

## 被害がひどかった森地区の委員に聞く

最も被害のひどかった森地区の委員、広瀬昭子さんにお話をうかがいました。「自分の家は一部の被害ですんだ。すぐにお年寄りの安否確認をして避難した。避難所ではこまめに声をかけるようにした。水が止まり、特にトイレは屋外の仮設トイレで、しかも寒かった。トイレへの送り迎えや、オムツの確保など、できるだけのことをした。3月25日に自分が自宅に戻ってから食事は避難所に通い、お年寄りの見守りも続けた。4月2日になって初めて自宅

に水道が出るようになり、自宅の風呂に入れたのは5月14日、今から1週間前」。委員として新人の広瀬さんは「特に高齢の人たちに喜んでもらえた。ありがと」。のひとことが嬉しかった」と語りました。委員自身も被災者です。混乱の中、気丈に行動した栄村の委員のみなさんに敬意を表します。

また「災害時一人も見逃さない運動」や自治組織などとの情報の共有化の重要性を再確認しました。



熊井編集委員長が広瀬さん(向かって右)に聞く

そして最後に「避難所生活で食事は十分に足りていた。東北の被災地の人たちには本当に申し訳ない」と広瀬さんがもらしたひとことが心に染みま

## トピック

### ボランティアも外から住民を支えた

役場のすぐ近く、被害の大きかった地域の1つにあるJR飯山線、森宮野原駅舎2Fの栄村復興支援機構「結い」を訪ねました。「中越地震でボランティアを経験した。被害が大きいため住民相互だけでは支えきれない。村外からボランティアが殺到することも予想されたため、地震の翌日には村に『ボランティアの受け入れ態勢をつくりましよう』と提案した」と話すのは



栄村復興支援機構「結い」代表、相澤博文さん

と話すのはNPO法人雪の都GO雪共和国代表で住民の相澤博文さん。

それから5日後の17日には、村と県・村社会福祉協議会、NPO法人栄村ネットワーク、みゆぎの青年会議所など8つの団体で栄村復興支援機構「結い」を立ち上げ相澤さんが代表となりました。「地震当時、2メートルも雪が積もっていた。雪は心の不安を増長させた」と相澤さん。まず雪かきから始め、片付けやゴミを出す作業が続きました。行政とも情報を交換しつつ仕事の汲み分けをしていきました。地域の結びつきが強い村だからこそ、見知らぬボランティアが自宅に入ることに違和感を覚える人も多かったです。「だから自分たちを、結いのしよ」と呼び、人と人とのつながりを大事にした。作業は多いときで1日35件、5月までに延べ2200件以上を行いました。震災後2カ月

を越えたころからは、遠慮して頼めずには被災者の手助けや農作業の手伝い、水路普請などを行っています。役場が公的な仕事を担い、区長、消防団、民生児童委員などを中心に住民同士が支えあう一方で、村外からのボランティアの力が着実に働いていました。こうしたNPOやボランティアとの情報交換については今後の課題といえるでしょう。



村外からのボランティア登録の様子 ※



訪問

# 民児協 だより



記者が地区民児協におじゃまし、会長や委員とコミュニケーションを図って、第三者の目でレポートしていく「訪問」コーナーと各ブロックの委員から活動を通して感じたことやエピソードを率直に寄稿していただく「ひろば」コーナーです。

## 池田町民生児童委員協議会



池田町民児協は民生児童委員33人と主任児童委員2人で活動。

### “赤ちゃんボランティア”が 手作りの赤ちゃんグッズをプレゼント

「日本で最も美しい村」連合に加盟している池田町。安曇野の田園風景と、刻々と変化する北アルプスの山々の威容が訪れる人を魅了します。この美しい町に赤ちゃんが誕生すると、担当の民生児童委員の出番。社協のボランティアさんたちが制作した赤ちゃんグッズを持参しての訪問です。

事業発足間もなくは男性委員から「母子を訪問なんて恥ずかしい」「ひとりでは行きにくい」などの声が出たため、社協の保健師が同行していました。ところが、訪ねてみると大変喜ばれることや、知り合ったお母さん方から後々までお礼を言われるなど、コミュニ

ケーションの輪が広がるにつれ、男性委員にとっても楽しみな活動として定着しています。

赤ちゃんボランティア事業の始まりは平成19年でした。専門家が入ることで子育てしやすい町づくりを目指した町では、出産直後から保健

師や助産師の定期訪問を行い、役場からはアルパムなどの贈り物をしていました。中止になっ



町の年間新生児数は約60人。社協のボランティア手作りの指人形、ガラガラなどのかわいいグッズ。「大切にしています」の母親の声が励み。

が中止になっ た。そこで「地域で子育て」の観点から民生児童委員に白羽の矢が。出生時から関わりが必要との意識になっていた民児協としても、プレゼント持参で訪問することで若い世帯と知り合うチャンスでした。特にアパート暮らし世帯では民生児童委員そのものの存在を知らない人もあり「民生児童委員とかいう人が来るが大丈夫か」との問い合わせ電話さえあったことも。民生児童委員を周知させる活動にもなっています。

5期目に入った片瀬興亜会長が大切にしているのは「委員が活動しやすい土壌づくり」。福祉台帳作りについて新委員に毎月少しずつ話して知識を得た上で取り組めるよう心がけ、サロンも「まずは自分でやってみて」からスタート。「地域の人々の生活面から地域活性化まで」という範囲の広さに「もう精一杯」と漏らしながらも、地域に貢献しています。



## 佐久市東地区民生児童委員協議会（紅雲台区）

いきいきサロンで心と体の健康を。  
互いに見守りあう地域の人的交流の場。

佐久市東地区民児協では地域のお年寄りが集まる「ふれあいいきいきサロン」事業に取り組み、12区内、11区で行っています。紅雲台区は昭和46年住宅団地造成で、若い世代が移住。時がたち高齢化が懸念される中、平成17年民生児童委員の清水とし子さん、公民館長と発案以来、ボランティアの力で毎月第3水曜日に開催しています。5月に行われた、第69回紅雲台いきいきサロンを訪ねました。



地域の芸能を見て拍手をする参加者のイキイキとした笑顔が印象的

られていい。芸能を見るのが好き。だからここにも毎月参加する」と笑みがこぼれます。発起人の1人で現在いきいきサロン代表の齋藤精徳さんは「時代とともに敬老会の存続ができなくなり、清水さんから『いきいきサロンをやろう』という提案があった。妻に相談し3人で準備を進めボランティアの力を借りて立ち上

この日は60代から80代の女性を中心に参加者は37人。血圧測定の後、歌ったり、軽い体操（健康長寿体操）をします。今回は舞踊発表が行われ、大いに盛り上がりつつありました。95歳の最高齢者も「歩いて来

げた」といいます。「ここまで暗中模索でやってきた。ようやく軌道に乗ったところ」と齋藤正子さん。区からも年間20万円程度の予算を確保。区長や役員も参加し、顔の見える地域のサロンに一役買っています。

実は2年ほど前、清水さんが体調をくずしました。一緒にやってきた齋藤さん始め、ボランティアによって無事サロンの存続がかないました。「支えているはずが、いつの間にかみんなに支えられている。見守っているはずがいつの間にかお年寄りに見守られている。月1回続けることで、地域の人同士が互いに見守り合えるようになった」と清水さん。運営の苦労が実を結び始めました。顔見知りになったため、委員の活動もやりやすくなったといいます。また思わぬ副産物は「紅雲台音頭」や、芸能の達人など、地域文化を掘り起こせたこと。人と地域をつなぐ民生児童委員の姿がここにありました。



ボランティアや区の役員のみなさん（前列向かって左が清水さん、後列向かって左が代表の齋藤さん）



## 表紙写真紹介

## 御代田龍神まつり

佐久地方に伝わる「甲賀三郎伝説」の舞台となった、古刹浅間山真楽寺の大沼の池で、全長45メートルの龍神「甲賀三郎」が、龍神太鼓や爆竹の音が響き渡るなか、勇壮に舞う「龍神の舞」です。「甲賀三郎」は、その大きさでおそらく日本一の龍だといわれ、胴回りが最大3.3メートル、担ぎ手が50人必要となります。また、全長21メートルで女性が担ぐ「舞姫」、子どもたちが担ぐ「雪窓丸」と「龍神丸」があり、4頭が共演するステージは圧巻です。

## 撮影

佐久市長土呂  
主任児童委員（浅間地区）

木内 精司さん

## profile

教職を退職した後、趣味として写真を始め、浅科写真クラブに入り、教えていただき楽しんでいます。他に、中込カメラの写真教室に入会して、あちこちへ出かけ撮影し、指導を受けています。

## 表紙写真募集!!

表紙を作品発表の場、地域の紹介の場にと考えています。日ごろ写真を趣味にしていられる民生児童委員の方々の地域の風景やお祭りなどの風物詩を撮った写真を募集します。掲載させていただいた方にはお礼を差し上げます。

デジカメで撮った作品の電子データをCDRに入れて、撮影者のプロフィール、写真の内容に関する説明を添えて県事務局までお送りください。詳細は県事務局（026-225-1613）まで。



ひろば

東信ブロック

地区の福祉協力体制

小諸市南大井地区民児協

渡辺 和子

私の住む集落ではかなり前から「ふれあいの集い」として、年に数回、ひとり暮らしのお年寄りを招いての茶話会や昼食会を、春・秋にはお弁当配布をしています。また、毎月のように「いきいき健康教室」を区民対象で開き、軽い運動やゲームなどで和やかに過ごしています。

これらの運営は「福祉推進委員会」で行われます。福祉推進委員会は、副区長が委員長で、福祉協力員、保健推進委員、民生児童委員で構成されています。2年程前までは区の福祉関係の催しなどそれぞれで計画し運営していたのですが、相談の上、区の組織として一本化し、より効率の良い協力体制となりました。

前記「ふれあいの集い」や「お弁当作り」で中心となり大活躍されるのが福祉協力員の皆さんです。主婦の方々が30名余りも進んで登録してくださり、グループになって献

立を立て、料理から配膳まで手際よく進めて下さいます。何よりすてきなはその和やかで楽しい雰囲気です。

皆さんが一生懸命作っていらつしやる姿や輝いている表情・動きを、私は感動して見ております。出来上がったおいしい料理を前に委員長も満面の笑顔です。

お世話する方も、される方もお互い和やかな豊かな気持ちを生み出していくのが福祉なのですね。



▲和やかな雰囲気のお弁当作り

南信ブロック

地域の方と共に

駒ヶ根市赤穂地区民児協

小林 タキ

「おはようございます」「自動車に気をつけて行くんだよ」と真新しいカバンの新1年生を含めた集団登校の子どもたちと交わすあいさつ。4月のあいさつ運動の朝です。

畑で草取りをしている方に「お元氣ですか。無理をしないよう休みながらね」と声をかける。赤ちゃんを乳母車に乗せたお母さんと会い「お子さん何か月ですか。よく眠れますか」と話し込む。満ち足りた赤ちゃんの笑顔にホッとします。どこにもある朝の光景です。

私は民生児童委員となり多くの方々と接し言葉を交わすことにより、皆さんが人には言えぬ心配ごとや相談ごとなどを胸の中に秘めていることを知りました。

駒ヶ根市でも地域のサロンが、皆さんの工夫と知恵により有意義な交流の場として定着しています。あらためて委員の方々の努力に頭が下がります。「くんには赤ちゃん事業」では、1人が月平均1〜2軒の家庭訪問をしています。赤ちゃんを中心

に和やかなひとときを過ごします。後日、その赤ちゃんが大きく成長した姿に接し、感動と喜びで思わず抱きしめてしまいました。

自分たち委員に何ができるのか。地域の方々とより多く接し、悩みや心配・苦しみを受け止めてより良い方法と方向を共に考え、少しでも心のつかえが和らぐように耳と目で読み取り、困った時はプロに任せる。これが本来の民生児童委員の姿ではないかと私は思います。



▲花よりダンゴのサロンです



中信ブロック

明るく元気な子どもたちを地域へつなぐ

東筑摩郡朝日村民児協

齊藤 はるみ

朝日村は松本盆地の南西に位置し、人口5千人足らずの88%を森林で占める農山村です。

私の担当している地区は、少子高齢化・過疎化が際立つ、全戸数80戸余りの山間の3地区です。

その中の一つ17戸から成る御道開渡地区のリーダーさんから「地域サロンの立ち上げに協力してほしい」旨の声がかかりました。願いは一つ、

丈夫で寝たきりにならないよう過ごすためです。集まって来るのは70歳以上の女性の方7人で、ひとり暮らしの方、今なお現役で野菜の出荷に精を出す方、また孫の子守に明け暮れる方などさまざまです。

サロンでは柔軟体操・風船つき・ゲーム・トランプ等に興じ、童心に帰って童謡唱歌や懐メロなどを歌います。また、お茶を飲みながら鳥獣被害のかまけ話や



▲朝日村名所巡り古川寺(こせんじ)にて

体の節々が痛む訴え、日頃の気がかりな事などをおしゃべりします。話題は尽きず、時の経つのも忘れてしまつ午後とのひと時です。名残惜しみながら、「次回も元気で来ようね」と約束をして解散します。

発足してから、早4年目を迎えた今もメンバーの顔ぶれは変わらず、元気でサロンを楽しみにしてくれています。

昨年社協より頂いた報奨金のおかげで村内の名所巡りができた事は忘れられないひとこまでです。

本年度頂いた方は震災の義援金にさせていただきました。ますます元気で、このサロンが続いていくよう祈るばかりです。

北信ブロック

区々の連携に力

上水内郡信濃町民児協

羽入田 トミエ

道も田畑も全く境界のない川と化した昨年7月の集中豪雨。何の迷いもなく災害時要援護者のひとり暮らし高齢者及び老人世帯の安否確認を行うとともに、平成21年に立ち上げた荒瀬原区(全76戸)の危機管理要綱に沿って協力し活動しました。堤

の氾濫とともに決壊寸前な危険箇所の住民の避難を誘導し、あらかじめ指定された集会所で一夜を明かしていただきました。誰しもが初体験の中、毛布が届き、朝には朝食が届き、時折目にする映像がまさにこの地域でも現実となっていました。が、

けが人もなく胸をなでおろしました。数日後、区関係者8名(※注)で今回の反省と、今後の課題について総括を行い、日常の地域の方々との接し方がいかに重要かを感じました。

区は緊急時連絡先と同意書を添えた全戸の台帳を作成し、2〜3年ごとに見直しをすべく今年一斉に実施しました。民生児童委員としては、災害時要援護者支援台帳に昼間一人になる高齢者も加え、区から有事の



▲集中豪雨の翌日撮影

際、情報提供を求められた時のために、該当する方々の同意書をいただきました。区の三役には個人情報漏えい厳禁の誓約書を提出してもらい、有事の際は個人情報と共有することができるようになりました。

つい先日の高齢者の集いでは、緊急時の避難場所等の説明と、災害時持ち出し物の準備の徹底を呼びかけ進行中です。

(※注) 区の役員4名・消防団1名・組総代2名・民生児童委員1名で有事の際効率よく連携する為に結成されたものです。



東日本大震災および長野県北部の地震で被災された皆さまには  
謹んでお見舞い申し上げます。

義援金をお寄せいただいた皆さまありがとうございました。

義援金募集期間：3月23日～5月10日

義援金総額：6,126,387円

義援金送金先：栄村民生児童委員・全民児連を通じて被災地の民生児童委員  
(配分は、県民児協正副会長会議で決定)

## 長野県民生児童委員協議会 平成23年度 事業計画

### 目標

## 誰もがいきいきと暮らせる地域づくりをめざして

—地域の関係機関・団体等との連携強化とネットワークづくりの推進—

### I 事業の方針

少子高齢化の急激な進展と人びとのつながりの希薄化は、これまでの福祉制度では対応しきれない複雑多様な生活課題を生み出しています。特に、地域社会から孤立した高齢者（世帯）や障がい者、子育て家庭、不安定な雇用情勢に起因する生活困難者（世帯）への支援や年間3万人を超える自殺者への対応は喫緊の課題です。

こうした中、3月に発生した東日本大震災は広範囲に甚大な被害をもたらし、多くの人びとに地域で支え合って生きることの大切さを再び気づかせてくれました。

わたしたち民生児童委員には、地域の様々な生活課題を抱える人びとの発見や相談支援・援護につながる福祉サービスへの橋渡し役はもとより、地域住民による支え合いを再構築していくかなめ役としての役割も期待されています。

長野県内では、昨年12月に行われた一斉改選で5,248人の民生児童委員が新たな3年間の活動をスタートさせました。長野県民生児童委員協議会では、県内の民生児童委員が地域住民とともに「誰もがいきいきと暮らせる地域づくり」を実現させるための活動を行いやすい環境づくりを推進するために、市町村民児協や行政と連携し、地域における関係機関・団体との連携強化とネットワーク構築をめざし、今年度事業を展開します。

### II 事業の重点

- 1 「災害時一人も見逃さない運動」の継続と充実
- 2 地域社会での孤立・孤独をなくす運動の推進
- 3 地域における子育て支援活動の推進
- 4 単位民児協の組織基盤強化の推進
- 5 民生児童委員が活動しやすい環境づくりの推進
- 6 地域福祉のネットワークづくりの推進



### 編集委員

### リレー日記

去る3月11日に発生した東日本大震災、並びに翌3月12日に発生した長野県北部地震により、被災されました皆さまに、謹んでお見舞い申し上げます。

そして一日も早い被災地の復興と、被災された皆さまが一日も早く元の生活に戻れますよう心からお祈り申し上げます。

私の住む佐久市でも、5分ほど続いた地震は震度5弱を記録。棚の上のダルマさんも落ちんばかりの大揺れとなり、電話もしばらくは不通の状態が続ぎ、不安に駆られました。夕方、近所のひとり暮らしのお年寄りのお宅に立ち寄ると、あまりにも揺れが大きかったので無事かどうか心配して、市内に住んでいる2人の子どもが電話をくれたこのことでした。

早いもので大地震から4カ月が経過しています。ボランティアとして支援活動にあたりた何人かの人から被災地での話を聞くたびに、地震そして津波の猛威に恐怖を感じるとともに自然との共生の在り方についても考えさせられました。

今回の災害では、地域に住む人々が安心して暮らしていくためには、地域に暮らす人々それぞれの思いやりと連帯が何よりも大切であることをも教えてくれています。

今後、「住民支え合いマップ」作成作業の一層の推進を図り、「ふれあいいきいきサロン」などによる交流の輪を広め、地域に密着した相談・支援活動を展開してまいります。

(小平 實)

編集委員／ 熊井 文弘・守屋 輝代・小平 實・小林 善則